

二学期・新学期の取り組み―夏期講習を終えて―

塾長 上谷恭範

夏休み元気に過ごしましたか。宿題、自由研究、読書感想文等々きちんと終えましたか。中学高校受験生の皆さんは所期の目的―毎日10時間の勉強をすること―を達成しましたか。

二学期は、これらのことを踏まえて、ドリムスクールで学んだ方は学級で1番から5番以内の成績を、学年全体では10番以内、つまりトップテンの成績を取ること。受験生はこれから志望校の過去問を解いていく。そして傾向を熟知し対策を練る。模擬テストではA判定(合格圏内)悪くともB判定を取ることです。

夏休み少々怠けたと気づいた方は猛勉強して怠けた日々を取り返さなければなりません。

修明塾のドリムスクールは、基礎的知識の習得です。だから勉強の好き嫌いに関係なく全教科理解できるようにすることです。つまり、自分の体にまんべんなく栄養を取ってこそはじめて心身ともに健康な体が維持できると同様です。

修明塾の受験生には基礎的知識の上にさらに応用的知識を教え、習得してもらわなければなりません。だから通常以上の勉強量と努力が必要になってくるのです。その上さらに、受験する学校の出題傾向を知り、その対策を練らなければなりません。例えば記述式問題が多ければ、書く力を養成する必要があります。小・中・高・大学の入学試験は落とすための試験です。つまり、ある基準の点数を取れば、合格できるというものではありません。ここに他の受験生との競争があるのです。

だから、

勉強せよ！ 復習しなさい！ 暗記しなさい！ 10時間勉強せよ！

と塾長は言い続けているのです。

入試まで、中学受験はあと5ヶ月、高校受験は6ヶ月。まだ間に合うかどうかは皆さんの意識次第です。

幼児教室・保護者の皆様へ

小学校受験ラストスパート！

谷本 美和

長い夏休みが終わり、二学期がスタートしました。それぞれの夏休みを楽しく過ごされたことと思います。海や山へ出かけた子、おじいちゃんおばあちゃんの待つ田舎へ帰省した子、キャンプに行った子、そして、夏期講習に参加し、頑張った子。たくさんの方の経験をして真っ黒に日焼けをし、一回りも二回りも大きく成長した子供たちの顔を見る事ができました。

年長児は小学校入試までまもなくです。気持ちを新たに頑張っていきましょう。これからの時期は過去問題を始めたり、実戦的な問題に取り組んでいきます。ですが、そればかりではなく、この時期だからこそもう一度受験に必要な基本的動作も見直してみましょ。



- ・姿勢よくきちんと座る事ができますか？
- ・相手の目を見て「です、ます」をつけて話すことができますか？
- ・えんぴつ・のり・ハサミ等の道具を上手に使うことはできますか？
- ・使った物の片付けができますか？
- ・自分の事は自分で出来ますか？ (服の着脱・洋服たたみ)
- ・くつはたったままではけますか？
- ・手を洗った後、きちんと自分のハンカチでふけていますか？

入試が近づくとつれ、ペーパーテストの出来、不出来だけにとらわれがちですが、入試に必要な事は、テストの点数だけではありません。日頃の躾も大きく影響します。生活の中で気を付けておきましょう。

早い小学校では10月上旬から面接が始まり、10月中旬にはテストが行われます。受験当日をベストな状態でむかえられるよう、体調管理に十分気遣いましょう。秋に運動会を行う幼稚園や保育園は要注意です。たっぷり睡眠時間を取りましょう。家庭学習は無理しない程度で様子を見ながら行って下さい。

何か不明な点や、不安な点がありましたら、**早め**に担当教師や室長にご相談ください。

お子様、ご家族、幼児教室が一丸となって、合格を手に入れましょ！！
頑張ろっ！！

6月の終わりから、アメリカの高校よりインターンとして来日した磯田夏幸さんが、8月で所定の期間を終了し、帰国しました。
(今月号のタイトルの絵は彼女の作品です。)

あっという間にこの塾にいる時間が経ってしまいました。短期間でいろいろなことを学ぶことができました。生徒達の勉強に対する努力と授業の間に見た自然な笑顔に日々感動しました。そして、一生懸命、生徒たちにその日の課題や問題を教えようとする先生の熱心な姿を拝見すると、人間を作る「教育」の大切さを感じることができました。こういった塾の授業を通して勉強への関心を持つ生徒こそ、未来の安心を築いていく生徒だと思っています。私も負けずにアメリカの高校4年生(日本の高校3年生)として勉強を頑張って、自分の目標を達成したいと思っています。

磯田 デイニティ 夏幸
お疲れさまでした！

夏期講習に参加して

清水文夫

8月の初旬に初めて夏期講習中期(ドリムクラス)の授業を担当した。担当する教科は国語と算数。受け持ち時間は1時間30分、1教科につき45分ずつの授業を行う。生徒は小5・小6併せて4人である。

私は授業に臨むに当り、生徒数が少ないことから、個別的な指導が出来ると考えた。

まず、生徒が課題を解いている間を回ってみる。そして、生徒それぞれの与えられた課題に対する理解度をチェックする。さらに、理解不足の生徒がいれば、適切な指導を行い、確実に理解させる。

理解度に関していえば、特に算数において、人により様々であった。誰がどの程度理解しているのか。あるいはどこが理解不足なのか。また、その原因は何か。それらに基づいて、一人一人に適切な対策を立て、指導する。

生徒も何故その解答がちがうのか。またどうしてこの解答が正しいのか。また、まちがえた原因は何か。それらを知りたがっている。そうした中で、一人一人の理解度に応じた指導が必要となってくる。

短い授業時間の中で、個別的な指導を行うことは大変である。しかし、一人一人の生徒の理解力を少しでも高めれば、講習に参加した意義を感じてもらえると思う。

迫る小学受験にむけて

脇田 良子

小学校受験の考查内容は、

- 一、ペーパーテスト
- 二、行動観察
- 三、運動能力
- 四、巧緻性・絵画・制作
- 五、口頭試問
- 六、面接（親子面接・保護者面接）等々

組合せは多種多様で、各校によって内容も異なります。今回は多くの学校で実施されるペーパーテストについて述べてみたいと思います。

ペーパーテストは、学力の発達度・知能指数を調査する試験です。

まず、小学校入試のペーパーテストが他の入試と違う点をいくつか挙げます。

第一の特徴は「文字や数字が使われていない」ということです。平仮名や数字は小学校の学習指導要領にのっているものなので、基本的には、入試問題で文字や数字を使用する事ができません。解答は絵や図に○や×をつけたり、その物の数だけ○や×を書く形で行われます。

第二の特徴は、「短時間で解答しなければならぬ」とことです。問題説明の時間を除くと、一問一答の場合、二十五秒程、複数の場合でも一分以内で解答しなければなりません。

第三に「すべての指示が口頭で行われる」ということです。基本的に数字・文字が使用できない訳ですから、問題文・設問・解答方法すべて試験官から口頭で（一部テープを使用する学校もありますが）行われます。

次にペーパーテストの出題分野について述べてみたいと思います。

「数」 数を数える・加減・分割・比較・座標

「図形」 同図形・異図形・図形の完成・合成・分割

・重ね・点図形・記憶

「言語」

お話の記憶・しりとり・なぞなぞ・同異音・同尾音・音数・合成

「推理」

立体をいろいろな方向から見た四方位・展開図・鏡や水に映った形・対称形を書く・切断・後ろから見た絵

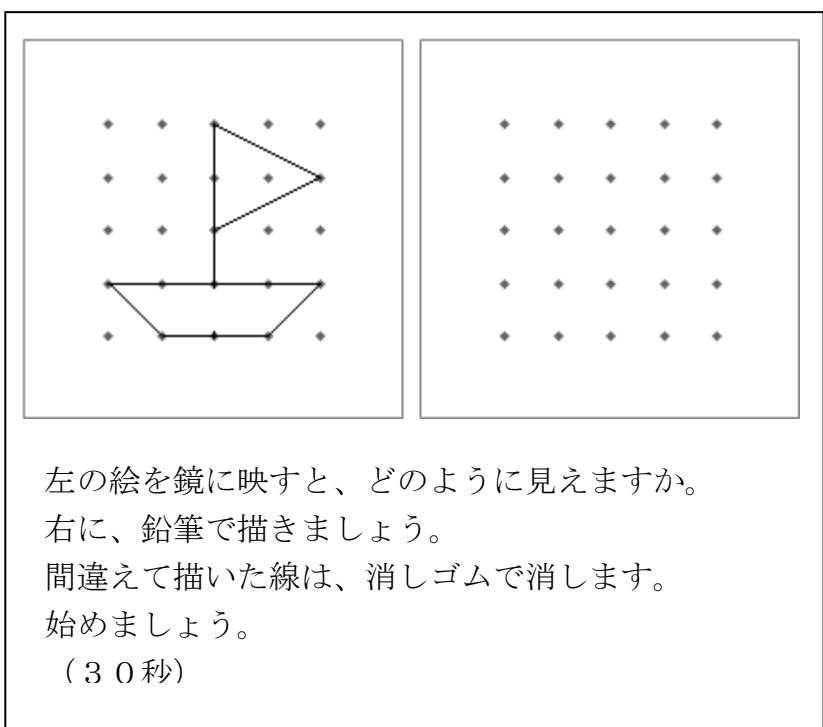
「科学・常識」 動植物の生態・四季の行事・家庭用品（用途・

使い方）・交通道徳・社会常識・太陽の方向と影・旗のたなびき方と風向・風速（強弱）

等々、学校側は、バランス良く発達した子が欲しいので、ほとんどの学校でこれらの分野がまんべんなく出題されます。ペーパー一枚あたりの問題量は各学校で異なります。

すべてのペーパーテストに共通して言えることは、人の話をきちんと最後まで聞き、ものをしっかりと見て、それに対応してすぐに行動に移すことができるかどうかということです。使う色を間違えたり、記入する記号（○や×や△等）を間違ったりしては合格点は取れません。合格点を頂く一番の基本は日本語力、つまり言語力です。その上に理解力とスピードが必要とされます。

最後に実物の入試問題の一部を掲載いたしますので、ご覧になって下さい。



左の絵を鏡に映すと、どのように見えますか。
右に、鉛筆で描きましょう。
間違えて描いた線は、消しゴムで消します。
始めましょう。
(30秒)

夏の一日講習

片桐 芳郎

修明塾・高砂教室での今年の夏期講習の一日、柴田先生が受け持っている生徒を教える機会を得た。中三の受験生、男女二名ずつの計四名である。各自の自己紹介の後、早速授業に入る。

- (一) 国語の読解的文章の読解。ポイントとは、設問の答えは必ず問題文の中にある。注意深くその部分を探すこと。徹底すると、必ず読解力がつく。文法は「ない」(助動詞・形容詞)の見分け方。……生徒の顔が輝く。
- (二) 数学の式の計算。公式に囚われるな。公式を作り出す基本を学べ。スピードと正確さの訓練。……集中力が高まる。

(三) 英語の基本文型。ポイントとは、第三文型・第四文型の相互転換の問題。文型の理解を具体的に伝授。……生徒の顔が穏やかになる。

生徒の理解度を確認しつつ進行。途中、若干の休憩を入れるも、13:30から18:00までぶっ通し。私の授業は、必ず生徒に喋らせる、説明させる。集中していないとそれはできない。それが緊張感を呼ぶ。

問題を解かせている若干の間、私は遠き日のことを思い出していた。初めて教えた生徒は、今や50歳代半ば、最後に教えた生徒も早や30歳になる。その最後の生徒を教えた年に生まれた子供たちが、今、目の前にいる。この15年という年月で生徒は、子供は変わったのだろうか。

かつて私は、生徒に対して全身全霊で教えた、というより、共に闘ったと言った方がいい。教え子に言わせると、私は相当に「熱血」であつたらしい。暑い盛り生徒が分かり切るまで何時間も教えたことを思い出す。教え子に対する学校の対応について校長に談判すべく乗り込んだことなど懐かしい。その子が先日電話をくれた。小学6年生の娘さんが謝恩会で「今、あなたが一番大切にしている宝物は何か」と問われ、「私が生まれたとき、お母さんの先生からもらったぬいぐるみ」と答えたという。この予期せぬ娘さんの話に驚きと感激で私に電話してきたのだ。

教育の世界は、アナログである、と私は確信を持って言い切る。生徒一人一人の顔色を見て声を聞いて教え育んでいくものである。

また、学習塾での勉強は「楽しい」ものでなければならぬ。「楽しい」とは「分かる」と同義語である。「分かる」ようにしなければ集中する。緊張感も自ずと生まれるのである。

教師についても、誤解を恐れずに言うなら、ただ教えるだけなら誰にでもできる。「いかに教えるか」が重要なのである。そこには、教師の、確かな技術に裏打ちされた大いなる「人間力」が必要である。

今回の授業で私は気がついた。今、目の前にいる(懸命に問題を解いている)この子たちも15年前の生徒と同じであることに。
みんな、また会おう！